

イチゴの防除回数削減を目指した 育苗期におけるハダニ天敵利用

東近江農業普及指導センター

【普及活動のねらい・対象】

イチゴ栽培では、ハダニに対する化学合成農薬の効果の低下が大きな問題となっています。そこで、普及指導センターでは、代替防除としてハダニ捕食性天敵(写真)の導入を予定している生産者 26 戸に対し、適正な天敵の利用とハダニ防除回数の削減を支援しました。

【普及活動の内容】

イチゴの育苗期から天敵を利用することで、ハダニの生息密度を下げ、定植から栽培終了までのハダニ防除回数を 6 回以内に抑えられるよう支援しました。

天敵の効果を安定させるため、研修会や現地支援の充実により、ハダニがほぼいない状態での天敵の放飼を啓発し、放飼後も天敵に負荷の少ない農薬を選定するよう誘導しました。また、本ぼ定植前の防除を確実にを行うことで、ハダニが本ぼに持ち込まれないよう徹底した支援を行いました。

【普及活動の成果】

育苗期のハダニの発生を抑えることができ、対象者 26 戸のうち 24 戸が、本ぼ栽培期間中のハダニ防除回数の目標(6 回以内)を達成しました。特に、今まで発生量が多かった 5 戸については、本ぼのハダニ防除に要した時間が約 4 分の 1 に削減できました。

今後も消費者に安全・安心なイチゴを提供することで、東近江地域のイチゴのイメージアップが図られるよう支援していきます。



写真 育苗期に利用された天敵製剤

◎対象者の意見

以前は防除してもハダニがなかなか減らず、本当に苦労していましたが、天敵等、総合防除の導入により防除が非常に楽になり喜んでいきます(生産者)。